

科目分類	助産学実践科目 実践・関連			開講時期	1年	前期
科目名	周産期の診断と技術 I (妊娠期・胎児期)					
選択/必修	必修	単位数(時間数)	1単位	30時間	授業形態	講義演習
担当教員	野々山 未希子 ・ 田中 真穂 ・ 窪田 裕子					
メールアドレス	m-nonoyama@tsuruga-nu.ac.jp(野々山) m-tanaka@tsuruga-nu.ac.jp(田中) y-kubota@tsuruga-nu.ac.jp(窪田)			オフィスアワー	随時相談に応じます。 事前にメール連絡してください	

授業目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊婦・胎児の助産診断・技術について説明できる。</li> <li>2) 妊婦への援助技術について説明できる。</li> <li>3) 妊娠期の異常について説明できる。</li> <li>4) 妊婦への個別・集団保健指導の意義・必要性について説明できる。</li> </ol>
授業概要	妊婦の健康状態および妊娠経過にかかわる助産診断、妊婦の援助技術、妊娠期の異常と異常経過における妊婦のケアについて理解し、妊婦に対して適切な助産診断と援助技術を実践できる基礎的能力を養う。
授業計画	<p>第1回 妊娠期の助産診断と助産ケア (野々山・田中)</p> <p>～5回 助産診断・技術学とは：      妊娠期の助産診断過程      妊娠期の身体的診断：      母体の診断(妊娠の診断、妊娠経過の診断、正常からの逸脱の診断)      胎児の診断(胎児の診断、胎児付属物の診断)      妊娠期のフィジカルアセスメント：      妊娠による母体の変化と妊婦健康診査      妊娠期の心理的・社会的・発達の診断：      日常生活への適応診断、心理的適応の診断、      親準備・出産育児準備の診断(バースプラン)、社会生活適応の診断      妊婦や家族への支援</p> <p>第6回 事例を用いた助産過程の展開：演習 (田中・窪田・野々山)</p> <p>～10回 助産診断に基づいた助産計画の立案、助産ケアの実施、評価、保健指導の立案</p> <p>第11回 妊娠期に必要な診断技術：演習 (田中・窪田・野々山)</p> <p>～13回 問診・外診(触診、聴診、計測診)・内診      妊婦健康診査の実際</p>

	<p>第 14・ 相談 教育 保健指導(集団・個人)：演習 (田中)  15 回 保健指導の基本と助産領域における健康教育  保健指導 (集団指導) 企画立案</p>
<p>教材  参考文献等</p>	<p>教科書：助産学講座 2 基礎助産学 (2) 母子の基礎科学, 医学書院  助産学講座 5 助産診断・技術学 I, 医学書院  助産学講座 6 助産診断・技術学 II 妊娠期, 医学書院  助産師基礎教育テキスト第 4 巻 妊娠期の診断とケア, 日本看護  協会出版会  日本産婦人科学会「産婦人科診療ガイドライン 産科編」  参考書：荒木勤, 最新産科学 正常編, 文光堂  荒木勤, 最新産科学 異常編, 文光堂  北川真理子他, 今日の助産, 南江堂  我部山キヨ子 大石時子, 助産師のためのフィジカルイグザミネ  ーション,  医学書院  *授業内で適宜紹介する。</p>
<p>成績評価  基準・方法</p>	<p>課題 50% 筆記試験 50%</p>
<p>履修要件</p>	<p>なし</p>
<p>留意事項  その他</p>	<p>看護基礎教育で学んだ知識が基本になっています。<u>事前学習</u>を行い、授業に  臨んで下さい。  *当該期間に 15 時間以上の予習・復習が必要です。</p>